

地域産材を活用した【純木造】の新庁舎



大子町新庁舎建設工事

平成30年1月、大子町は庁舎の老朽化などを背景に現地建替を計画。

しかし、令和元年10月の台風第19号によって旧庁舎を含む市街地中心部が浸水。甚大な被害を受け、翌年1月に高台に位置する現新庁舎の建設地に変更された。

新庁舎は大子町のコモンホールとして、災害時の防災拠点としての役割も兼ね備えている。

県産材【純木造】の木架構の現し、吹抜け大空間を大きな特徴とし、特産品の大子漆を用いた棚、大子那須楮を原料とする美濃和紙を使用した和紙硝子を用いるなど、新庁舎そのものが地域産業を発信する建物となっている。

庁舎全景



工事概要

工 事 名	2新庁建第1号 大子町新庁舎建設工事
工事場所	茨城県久慈郡大子町大字北田気上ノ原662番地
工 期	令和3年3月16日～令和4年7月31日
発 注 者	大子町長 高梨 哲彦
設計・監理者	(株)遠藤克彦建築研究所
工事内容	建築・電気設備・機械設備・外構（一部）
構 造	木造2階建て
敷地面積	25,888.7m ² ・建築面積：3,928.2m ²
延床面積	5,256.7m ²
	行政棟、連棟コア、議会ホール棟、倉庫棟

行政棟 メインエントランス



行政棟 執務エリア



議会ホール棟 議場



担当者の声

大子町は、年間の気候変動が激しく、仕上材となる木材の品質管理が重要であると共に、建物構造が木と製作金物による接合の混構造となることから、製作・建方計画を密に行う必要がありました。

接合金物が約7,500個あり、共通で利用できる形状が少なく、個々の金物に対してそれぞれ木材のプレカット加工図を組み合わせる必要があり、非常に煩雑な作業でしたので、上棟した時の喜びは格別でありました。

建方は、木架構が現しとなることから、各部材の組立手順等を協力会社と協議を重ね、関係者一丸となり工事を進めました。材料である木材の凍害、雨水対策として、シートやロールフィルム等を用いて養生を行い、木材の保護に細心の注意を払いました。

また、行政棟と議会ホール棟を準耐火建築物とするために区画面積を3,000m²以下に抑え、燃えしろ設計※1を採用し、渡り廊下にて接続しています。

渡り廊下は連棟コア区画となり、貫通処理等も(一社)日本木造住宅産業協会の2時間耐火構造の認定仕様での施工を採用していたことから、制約が多くあり苦労しましたが、無事、認定条件をクリアし建物を完成させる事が出来ました。

竣工式では地域振興の一翼を担えた事が実感でき、大変誇らしい気持ちになりました。

※1 燃えしろ設計とは

木製の柱・梁について、火災時に燃えるであろう厚みをあらかじめ構造上必要な断面に付加する手法で、燃え進み方が緩慢な木造の性質を工学的に評価したもの。



茨城本店 建築部

松間 武

後藤海光

鈴木達朗

浅野忠繁

野田忠志